

目の前の必要と 魂の必要に応えたい

おゆみ野教会など宣教チームが長期支援へ



仙台近郊 (写真提供=ヘルプ東北・地震災害支援)

3月11日に襲った東日本大震災。その2日後の13日には物資を詰め込んだトラックが東北を目指していた。長老教会・おゆみ野キリスト教会(タニエール・アイバーソン牧師)などいくつかのチームや教会の協力によるものだ。迅速な支援の動きはどのように進められたのか。共同支援プロジェクト「ヘルプ東北・地震災害支援」が立ち上がり、継続的な支援をすでに進めている同団体のスタッフに現在と今後の支援について話を聞いた。

千葉市緑区にあるおゆみ野キリスト教会は、アメリカ長老教会関係のチームが複数協力している。プロジェクトによって開拓された教会だ。今回、支援の動きをいち早く取れたのは「タニエル宣教師の行動力と宣教師のネットワークによる」とおゆみ野教会のスタッフは話す。そこには、おゆみ野教会の宣教師が、物資を毎日輸送する中で、最初は無償で封鎖された道路を走って物資を届けた。その後、物資を毎日輸送する中で、最初は無償で封鎖された道路を走って物資を届けた。その後、物資を毎日輸送する中で、最初は無償で封鎖された道路を走って物資を届けた。

あちこちであがっているという懸念もあります。ガソリンも詰めこみ、第1フェーズとして物資運搬に重きを置いた。

物資運送を初めて2週間がたった。様々な被災状況が配達路上で目撃された。「ある町は津波で壊滅状態。多くの市民が避難しているが、家が残っている一部の人々がここに生きていて、カッパ

「引き続き必要に応じて物資の運搬はしていきます。地域のベースの教会から、行政の手の届かない人たちが、地区にもなるそうです。助けが届かないところは、サバイバルモードになりつつある

宣教師のひと言が

「ママ」たちの底力

被災地支援、地域ぐるみ

おゆみのキリスト教会のバックグラウンドであるアメリカ長老教会のミッションを受けて、開拓されたグレースシティチャーチ東京(福田真理牧師)の本紙の「また行きたい!魅力ある教会」でも取り上げてきたが、同教会は「グレースシティリーフ」という災害支援ミニストリーを立ち上げ、ヘルプ東北・地震災害支援に協力して支援活動を行っている。

同教会の宣教師、アビラウザーさんに話を聞いた。地震の後、東北が大打撃だと知りまし

「ただ、最初の第1フェーズは終わり、第2フェーズに入りまし

「引き続き必要に応じて物資の運搬はしていきます。地域のベースの教会から、行政の手の届かない人たちが、地区にもなるそうです。助けが届かないところは、サバイバルモードになりつつある

被災地に赴き、地元の人に水や食料を配っていると、「これ、どうぞ」



被災地では皆が心を合わせて祈った

前中、幼稚園のママ友数人に話した。「私たちも何かお手伝いしたい!」

「おにぎりやパンを2千個に



衛生面でも細心の注意を払っておにぎりをにぎった

「この町が一体となってこの震災に立ち向かっています。この町にとっていいことだと思

「この町が一体となってこの震災に立ち向かっています。この町にとっていいことだと思

「町の復興見届けたい」

原発35キロ圏 鹿島栄光教会

原発から35キロ圏の福島県南相馬市にある日本基督教団鹿島栄光教会。佐々木茂牧師は、今の避難生活は、ここを去るのではなく、ここを復興させる。町の復興を見届けたい。町の復興を見届けたい。町の復興を見届けたい。

「この町が一体となってこの震災に立ち向かっています。この町にとっていいことだと思

「この町が一体となってこの震災に立ち向かっています。この町にとっていいことだと思

【奥山みどり】